

佐賀女子短期大学付属ひしのみこども園

ひしのみだより

令和7年 11月 6日

文責 園長 和泉 秀浩



秋の行事満喫 児運動会、秋の遠足

10月18日は、ひしのみこども園3歳以上歳児の運動会でした。この日は、園庭での準備完了後、雨模様となり、急遽ホールでの開催に変更しました。保護者の皆様には、急な変更にご対応いただき心より感謝申し上げます。

子どもたちは、かけっこや遊戯、ダンスに親子競技と子どもらしく元気に頑張りました。ご家族に皆様の応援がとても励みになりました。ご家族に皆様の愛情がホールを満たす運動会となり、子どもたちは一層輝きました。

10月30日は、秋の遠足でした。中央公園まで行きました。この日は、晴天に恵まれ、どんぐり拾いや虫取り、遊具での遊びととても楽しんでいました。子どもたちが一番お笑顔を見せたのは、お弁当を開けるときでした。子どもたちが素晴らしいと感じたのは、ゴミが落ちてなかったこと、けがをする子がいなかったことでした。自分で考えて行動することが、自然と身についていました。

この後は、11月22日（土）に親子ふれあい会、

12月5日（金）もちつき会と行事があります。子どもたちに輝く姿と成長を見に来てください。



「もっとやってみたい」がわきあがる環境づくり

「もっとやってみたい」がわきあがる環境づくりとは、ひしのみこども園の研究のテーマです。本園は「あそびは学び」を念頭におき、子どもたちの主体性を育むために、保育・教育を進めており、その中で、発想力や行動力などなどの非認知能力を育てています。保育教諭は、どんな環境が、どんな素材が、どんな言葉かけが子どもの主体性を育むかを日々考えて、準備して、保育にあたっています。保育教諭の働きかけには、強制的言葉はありません。自分で気づくように仕向けます。

10月31日には、0・1歳児の研究保育を行いました。提案の一つに、穴をあけた大き目の段ボールがありました。穴から物を入れて楽しむことが主な目的でしたが、穴をのぞいて楽しんだり、物が落ちる様子を横から見るために別の段ボールを下に重ねて見やすくしたりと遊びがどんどん広がっていました。足を入れてみて楽しむ子もいました。子どもたちの脳がフル回転している様子がうかがえました。既製品のおもちゃでは味わえない感覚のようでした。

そして、その時感じたことを自分の表現で、伝えていたことがすごいと感じました。日々、子どもたちの学びに向き合う保育教諭の日常が、子どもたちの成長を促していると強く感じました。

4月に比べると、言葉の数が増え、しっかり歩いて行動しています。それらは、半年ぐらいあると当たり前の成長なのかもしれませんが、その半年に、教育的働きかけがあるのとないのでは大きな違いがあると感じた時間でした。

お知らせ

バスの送迎をしていた、山崎正弘先生が、足の骨折により、来年1月中旬まで、入院となりました。そこで、この期間、桐野哲義先生がバスの送迎を行います。以前にひしのみこども園にお勤めをされていて、懐かしいと思われる方もいらっしゃると思います。